

スリーハート

第8号 平成31年2月12日（火）発行

節分、立春…春は、もうすぐ…

2月3日（日）に甚目寺観音の節分会が行われました。本校では、毎年3年生の児童が甚目寺観音や関係各位の御厚意により、豆まきの体験をさせていただいています。今年は日曜日でしたので、希望者の参加とさせていただきました。翌日2月4日の朝礼で、節分、立春、甚目寺観音についてお話ししました。

それに向けて、改めて、甚目寺観音の節分について調べてみました。甚目寺にお住まいの皆様はご存知のことと思いますが、紹介させていただきます。



○ 節分、立春

暦の上で春が始まる日が「立春」（2月4日ごろ）。立春の前日が節分（節分という言葉には「季節を分ける」という意味がある）。昔の日本では、春は一年のはじまりとされ、特に大切にされたので、春が始まる前の日、つまり冬と春を分ける日だけを節分と呼ぶようになったとのこと。

○ 甚目寺観音を含む尾張四観音の由来

1603年に徳川家康によって江戸幕府が開かれ、1610年に徳川家康の九男、徳川義直公（初代尾張藩主）により名古屋城が築城された。その後、城下町が整備された折りに名古屋城守護のために、城の四方に尾張四観音（北【甚目寺観音】、南【笠寺観音（笠覆寺）】、東【龍泉寺観音】、西【荒子観音】）が設定された。四寺院とも千年以上の歴史がある。その年の「歳徳神（としとくじん）」の住む方位を恵方（えほう）という（今年の恵方は東北東）。尾張四観音のうち、その年の「恵方」にある観音への参拝



を「恵方参り」と称して、城下町の商人に推奨したのが始まりだといわれている。

○ 甚目寺観音の節分会

甚目寺観音「節分会」では、名古屋城を中心と見立てて「恵方観音」より厄男の

リードにより「福は内」を四回、最後に外（正面）へ向いて「鬼は外」を一回豆を撒いている。恵方は、甚目寺、笠寺、龍泉寺（今年の恵方）、荒子、笠寺の順にて回っていく。甚目寺観音では、甚目寺在住の当年数え 42 歳の厄男のリードにより一般祈祷者に「節分」の豆撒く行事を行っている。

甚目寺観音は、千年以上の歴史があると知り、改めて、この地域の長い歴史と伝統を感じました。子どもたちにも、郷土の歴史や文化を知ってもらい、自分たちの暮らす地域への愛着をもってほしいと思います。

立春を過ぎ、日差しのあたたかさを感じることも増えてきましたが、まだまだ冷えこみの厳しい日もあります。

全国的にインフルエンザが大流行しています。ご家族の皆様の健康管理には、どうぞご留意ください。



にしっこアルバム

1月



1・2・3年煙体験



5年水消化器体験



4年救助袋体験



図書ボランティアさんによる読み聞かせ



23日(水)3年防犯教室



23日(水)4年二分の一成入式



23日(水)

6年ものしり検出前授業



25日(金)

PTA牛乳パックアルミ缶回収



にしっこジョギング